

おかやま山陽高校マイスタースクール「能」

代表者：守安恭一 所在地：浅口市鴨方町（おかやま山陽高校内）

伝統文化の「能」を児童生徒へ普及し、情操豊かな心の育成に努める

◎ 目的

世界標準という言葉が合い言葉となっている現代、私たちは日本人としての寄る辺を見失ってしまいがちです。体験を通してそれを感じ、新たな目を開いてくれるのが伝統文化です。平成12年から能を勉強してきましたが、1年間の経験を通して生徒たちは落ち着きと情操豊かな心を身につけることができたように思います。「能」を学ぶことで、その雅と幽玄さ、静と動の調和を経験し、現代の高校生に日本の伝統のもつ美への関心を高め、伝統文化に携わるもののすそ野を広げたいと考えています。また、文化活動を通して豊かな心と落ち着いた調和の心を育てていくことも目的としています。

◎ 経過



後楽園能舞台で「羽衣」を舞うおかやま山陽高校生徒



後楽園能舞台で「狸々」を舞う三勲小学校児童

平成12年度、総合学習の時間（マイスタースクールと呼称）に各界で活躍されている先生方に講師としておいいただき本物の技能を学ぶという取り組みを始めました。「能」はその中のひとつで、広島県福山市にある喜多流大島能楽堂で活動されている大島衣恵先生、大島文恵先生、そして森田流笛方の八木原周平先生をお招きして謡、舞、器楽の技能の習得に努めてきました。基本的な立ち居振舞いから始まり、専門的な能の知識までを学ばせていただきました。その成果を発表する場として平成12年の後楽園築庭300年記念をきっかけにこれまでに9度実施いたしました「はじめての能楽大会」があります。これは毎年11月中旬に岡山後楽園能舞台で岡山市立三勲小学校と合同で開催している舞台です。毎年地域の方々や観光客など多くの方が会を見学に来ておられ、好評を博しています。しかし、この会は単なる児童・生徒の単なる発表の場ではなく、能という日本の伝統文化を広め、何よりもその伝統に目を向けるきっかけを作るものにするという主旨で活動し、大きな意義があったと思います。今後も伝統文化を育む種を蒔くことで、文化振興の発展のための一助になりたいと考えています。

はじめての能楽大会

— 岡山後楽園 能舞台 —

平成20年11月13日(木)

開演：午後1時

終了：午後3時30分

《鑑賞料：無料 ※但し、後楽園入園料有料》

【主催】岡山市立三黠小学校

おかやま山陽高等学校



第1部 能学習発表会

岡山市立三黠小学校6年生児童

おかやま山陽高等学校生徒

学習能『猩々』

略式舞囃子『羽衣』

第2部 能楽鑑賞会

— 解説 —

能舞『巴』



なお、この会の開催にあたり、岡山市教育委員会、(財)福武教育文化振興財団、三黠地区社会福祉協議会、三黠小学校PTA等の温かいご支援を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げます。

「はじめての能楽大会」パンフレット

息合った演技と謡発表

後楽園で
能楽大会
三黠小生らが「猩々」



「猩々」を演じる三黠小の6年生

岡山市の後楽園能舞台で十三日、三黠小学校(徳吉町)児童らが「はじめての能楽大会」があり、六年生八十一人が今春から取り組んできた成果を発表した。児童が演じたのは酒好きの妖精が親孝行の所作も決まり、観客ら盛んな拍手が送られた。酒に浮かれ踊る猩々を息の合った演技と謡で表現。扇を手にした。この日は、おかやま山陽高校(浅口市鴨方町)の一、二年生七人も「羽衣」を演じた。同校は喜多流能楽師大島衣恵さん(三)文恵さん(三)に福山市光南町に能を教わっており、二〇〇年から合同で発表会を開いている。(小泉潮)

山陽新聞(平成20年11月14日)

◎ 成果

平成20年11月13日の岡山後楽園での能楽大会も大変盛況で、観衆の方々からも多くの拍手をいただくこともできました。伝統文化を子どもたちが行うことで保護者の方や地域の方も巻き込み、これまでに触れたことがなかった「能」の世界を知るきっかけとなる役割を、ほんのわずかではありますが果たせたように思います。普段身近にない芸能を実感できる場として重要な会だと思っています。

また、子どもたちにとってもこれまでに習得することができた伝統芸能の技を、本物の舞台に立ち表現することの意義も大きかったように思います。慣れない正座から始まり、すり足でのゆっくりとした動き、じっとしているだけでも力が必要な立ち方などの立ち居振舞いは、見ているだけではとても理解ができず、共感

もわかなかたはずでした。自分たちで行うことで、伝統文化の大変さを理解することができたのです。初めは見様見真似、何とかこなしていたというレベルの生徒たちが稽古を重ねるにつれ、その時間を真剣に熱意を持って打ち込んでいく姿を見てきましたので、「能」をはじめとする伝統文化が持つ教育力の大きさにはいつも驚かされます。周囲との調和、心の落ち着きなど短い時間にもかかわらず、知らず知らずのうちに大きな成長を遂げているのです。伝統文化が、これだけ長

く受け継がれてきた答えがここにあるように思います。子どもたちの成長のために、また、日本が誇る「能」という文化の伝承の一助となるようにこれからも継続をしていかねばならないと考えています。

◎ 今後の課題と問題点

平成20年度は2月に福山リーデンローズという会場で「芸能大全」という行事があり、出場する機会を得ました。せっかくの活動でありますので、その発表や成果を多くの方々に見ていただける場面を増やしていかなければならないと思います。また、この活動をはじめ平成21年度で10年目を迎えます。継続していくことも大切な課題です。

●執筆者：守安恭一

● 会のプロフィール

平成12年におかやま山陽高校の総合学習の授業の一環としてスタート